

特 集

スコピストを極める

外科手術は良好な手術視野の確保から始まる。開腹手術では、遮蔽物をよけたうえで術者・助手が臓器を把持して適切な方向に牽引する。それで不十分な場合は、臓器の授動などで視野を改善する。そのうえで、どの角度からどのように見るかは術者の目線で決まり、術者の裁量で適宜拡大鏡などを使用する。この術者の目線のところが腹腔鏡手術では、第三者であるスコピストに委ねられる。この第三者は手術のメンバーで最も経験の少ない医師である場合が多いが、見たいところを画面の中心部におき、適切な角度から適切な拡大倍率で見るといのはなかなか複雑な作業であり、これがうまくいかないと術者のフラストレーションは大きい。一方、熟練者がスコピストをする場合には、術者が手術に不慣れでも自然な流れで見えている部位を処理することになり、それがそのまま手術指導につながることもある。このように重要な役割を占めるスコピストであるが、その手技について系統的に書かれた成書はない。本特集は、多くの若手が腹腔鏡下手術で最初に経験することになるスコピストにとっての聖書をめざすものである。